


第63回 社会福祉のフロンティア　主催：立教大学社会福祉研究所

DIRECTED BY KAORI SAKAGAMI

初めて日本の刑務所にカメラを入れた
圧巻のドキュメンタリー

# PRISON
# プリズン・サークル
# CIRCLE

取材許可まで6年、撮影2年――

## 人が人であるとは、どういうことか
## 人が人として生きるとは、どういうことか

## 2026.11.28 sat 14:00

上映(136分)＋トーク(40分)

坂上香監督×中澤照子
（元保護司）

司会：石川良子
（立教大学社会学部・社会福祉研究所所員）

要予約・入場無料

立教大学池袋キャンパス 9号館大教室

ご予約（定員150名）
r-fukushi@rikkyo.ac.jp

©2019 Kaori Sakagami

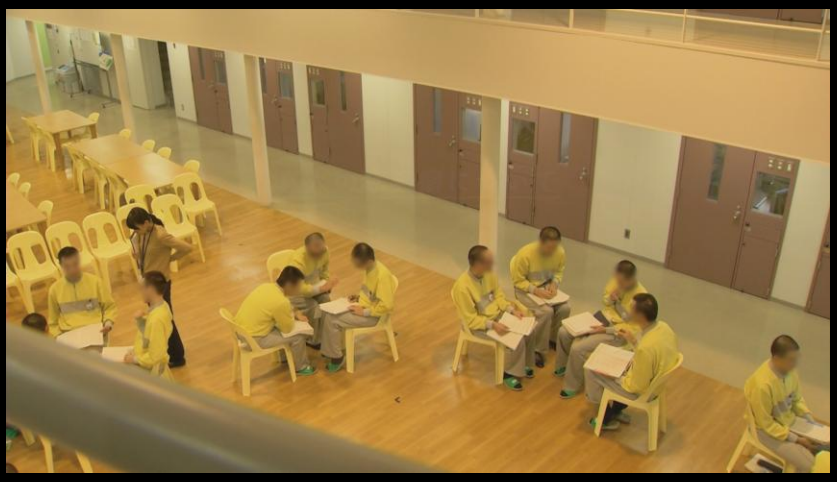




# 人が人であるとは、どういうことか











# 人が人として生きるとは、どういうことか

# PRISON CIRCLE

『プリズン・サークル』は、日本の刑務所で初めて長期撮影を行ったドキュメンタリー作品である。島根あさひ社会復帰促進センターにおける、受刑者同士の対話を基盤とした「TC（Therapeutic Community＝回復共同体）」の実践を２年間にわたって撮影。受刑者たちが、自らの犯した罪やその背景にある経験・感情と向き合い、対話を通じて新たな価値観や生き方を模索する姿を描き出した。

本作品では、主人公として４名の若者がクローズアップされる。そのなかの１人は自分の犯した罪を「罪」として認識できないでいた。しかし、彼はTCでの時間を通して、被害者の存在に思いを至らせるようになる。 TCには自分のことを語れば、まっすぐに目を見て受け止めてくれる人がいる。だから、自分も相手の声に耳を傾けようと思える。こうした対話を重ねるなかで、彼は自分自身が「人間」であったことを思い出し、また被害者も同じく「人間」であったことに気づいたのではないか。

このようにTCを通して変容していく過程を見ていると、プログラムの外側にある刑務所の日常が異様なものとして迫ってくる。とりわけ受刑者が番号で呼ばれ、大きく返事をしながら次々と立ち上がる点呼の場面では、同じ「人間」が管理する側と管理される側に分けられていることに、強烈な異和を覚える。

この作品は、「犯罪者」や「受刑者」という「一部の特殊な人たちの物語」ではない。
人が「人」であるとは、どういうことか。
人が「人」として生きるとは、どういうことか。
こうした根源的な問いを、私たちに投げかけてくる。

上映後は、坂上香監督と保護司として長らく活動された中澤照子氏をゲストに迎える。作品とトークを通して、自分自身の問いを見つけていただきたい。